ご挨拶

この度、備前焼作家の伊勢崎紳さんとのご縁により、「医と土のこころ展」を開催することとなりました。

伊勢崎紳さんは、祖父の伊勢崎陽山さん（岡山県重要無形文化財保持者）より100年続く陶家に生まれ、父の伊勢崎満さん（岡山県重要無形文化財保持者）に陶技を習い、花入れ、茶道具、日々の食器など多くの作品を手掛けられております。

禅語に心身一如という言葉があります。心と体は一体であり、健康になるには体の問題だけではなく、心の問題にも目を向ける必要があるというものです。近年の医学の進歩により、病気の診断や治療成績は飛躍的によくなり、人々の寿命は長くなりました。しかし、西洋医学による臨床研究の世界では人の生存率や入院回避率などに焦点が当てられており、人々がどう幸せになったのかについては注意が向けられていないように思います。さらに昨今の人々の孤立は、心の問題を深刻化することにつながっているようにも感じます。

自然の土を触ったり、手造りされた器を楽しんだり、身の回りにある草花を眺めたりすることは強い刺激ではありませんが、優しく穏やかに私たちの心を癒やしてくれます。無釉焼き締め陶の備前焼は、大地の土そのものを感じやすい器肌であり、作品には伊勢崎紳さんの人々が幸せに日々を過ごしてもらいたいという思いが吹き込まれています。

今回のイベントでは、実際に原土として使われている備前の土や、今から約650年前の室町時代の陶工によって作られた備前焼の陶片などにも触れていただけるようにしました。このたびの試みが、皆さんの心を癒やすひとときとなる機会となれば、幸甚に存じます。

医療法人暁会谷口ハートクリニック　理事長　谷口　学